

【事例紹介】

ミャンマー人留学生受入れの課題と展望

－留学コーディネーター配置事業を中心に－

Challenges and Prospects to Receive Myanmar Students:
Focusing on the Study in Japan Coordinator Project

岡山大学グローバル・パートナーズ教授 宇塚 万里子

岡山大学グローバル・パートナーズ事務部国際企画課課長 原田 美樹

岡山大学日本留学情報センター（ミャンマー）留学コーディネーター 野原 稔和

UZUKA Mariko

(Professor, Center for Global Partnerships and Education, Okayama University)

HARADA Miki

(Director, International Affairs Division, Center for Global Partnerships and Education,

Okayama University)

NOHARA Toshikazu

(Study in Japan Coordinator, Okayama University Japan Educational Information Center

(Myanmar))

キーワード：ミャンマー、留学コーディネーター配置事業、外国人留学生獲得戦略

1. はじめに

社会や経済のグローバル化が進展し、世界的な留学生獲得競争が激化する中、2013年6月に閣議決定された「日本再興戦略」において、2020年までに「留学生30万人計画」の実現を目指すとともに、優秀な外国人留学生獲得のための海外の重点地域の選定、大学の海外拠点の強化や支援の充実等による戦略的な外国人留学生の確保を推進することが明記された。

上記の考え方を踏まえ検討を重ねた結果、2013年12月に取りまとめられた「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略（報告書）（平成25年12月18日 戦略的な留学生交流の推進に関する検討会）」において、外国人留学生受入れ施策の成果が十分に期待できる重点分野や我が国の発展に特に寄与すると考えられる重点地域及び今後の対応方針が示され、留学生30万人計画の実現に向けて戦略的な留学生の受入れを実施することとした。

そのための具体的な方策の一つとして、ミャンマーなどの重点地域において、様々な垣根を越え、オールジャパンで日本留学を促進するための司令塔となる留学コーディネーターを配置することが、文部科学省により決定された。岡山大学は2014年度に同配置事業に採択され、留学コーディネーター

をミャンマーに配置し、国費外国人留学生を含めた優秀な外国人留学生の受入れを推進している。また、「国立六大学国際連携コンソーシアム」（以下、「六大学」）という広い受け皿を活用するなど、オールジャパン体制を展開している。

そこで本稿では、ミャンマーにおける留学コーディネーター配置事業を事例として取り上げるにあたって、まず岡山大学及び「六大学」のミャンマー支援について説明したのち、岡山大学が受託した留学コーディネーター配置事業でのこれまでの取り組みについて紹介する。続いて、ミャンマーにおける海外留学の傾向と日本留学への状況を詳述する。最後に、これまでの取り組みの中で見えてきた課題と今後の展望について述べる。

2. 岡山大学及び「六大学」のミャンマー支援

岡山大学は、千葉大学、新潟大学、金沢大学、長崎大学、熊本大学とともに、旧制医科大学を前身とするなど、その規模や教育研究内容に鑑み60年以上にわたり、国立六大学（いわゆる「旧六」）として密接な連携を続けてきた。2013年3月には、その実績をもとに各大学の学長による「六大学」を設立し、教育、研究、国際、広報等の分野で、より関係を強固なものとして様々な活動を展開している。また、「六大学」は国際担当理事・副学長をメンバーとする国際連携機構（英語略称はSUN/SixERS、以下、「機構」）を設置した。「機構」は、2013年度にミャンマー政府の要請に基づき、ミャンマーの工学系、医療系の人材育成を目的とした工学系と医学系の連携プロジェクトにそれぞれ着手した。ミャンマーの科学技術大臣や保健衛生大臣が来日した際には「六大学」の学長も同席し、連携協定を調印して、国際協力機構（JICA）の支援のもと人材育成プロジェクトを開始した。

医療系の幹事大学の岡山大学と工学系の幹事大学の長崎大学は、ミャンマー人留学生のリクルートを実質的に実施してきた経緯がある。工学系、医学系両支援プロジェクトにより、特に博士課程の留学生がJICAの支援のもと「六大学」に留学してきている。また、岡山大学を中心とする「六大学」によるミャンマー医療人材育成のためのJICAプロジェクト（医学教育強化プロジェクト）が2015年より開始されたが、それに遥かに先立つ1988年より岡田茂岡山大学名誉教授を中心にミャンマー医療支援はスタートしている。1996年からは岡山大学としての本格的な協力に移行し、多くのミャンマー人研究生・研修生が岡山大学に留学している。

さらに、「六大学」は日本国内の大手企業との密接な関係があるのみならず、今後の成長産業分野として期待されるような我が国の地域の優良中小企業（ミャンマーへの進出も狙う企業）との強い結びつきを有し、またこれらの地元企業とのミャンマー人留学生支援の実績も有していることから、留学生のインターンシップ、就職支援を視野に入れた受入れ体制の構築を目指している。

2014年には、「六大学」がそれぞれの分野においてこれまで築いてきたミャンマー政府及び大学等との教育研究協力の強みを結集させ、我が国全体のミャンマーからの留学生受入れ及び今後の同国との

大学交流の発展に寄与すべく、「六大学」の国際連携をリードする岡山大学を代表大学として留学コーディネーター配置事業に採択された。

これらのように、「六大学」はミャンマーにおいて日本の大学の中では先駆的かつ現在進行形の実績を有している。そのため、ミャンマーから我が国への優秀な留学生の確保に不可欠な、分野・レベルに応じたより多様で正確なマッチング体制、我が国の企業の積極的参画を基盤とする卒業後のキャリア支援体制をもって留学コーディネーター配置事業の展開を目指している。

3. ミャンマーにおける留学コーディネーター配置事業での取り組み

2014年度の留学コーディネーター配置事業の委託を受け、ミャンマー人留学生への留学情報の提供、留学相談などリクルート活動を開始した。2014年12月には、ヤンゴンとマンダレー（ミャンマーの第二の都市）で同事業のキックオフ・セミナーと日本留学フェアを行い、2015年2月からはヤンゴンに岡山大学日本留学情報センター（ミャンマー）（以下、「OJEIC」）を開設し、同年3月から留学コーディネーターをヤンゴンに派遣した。

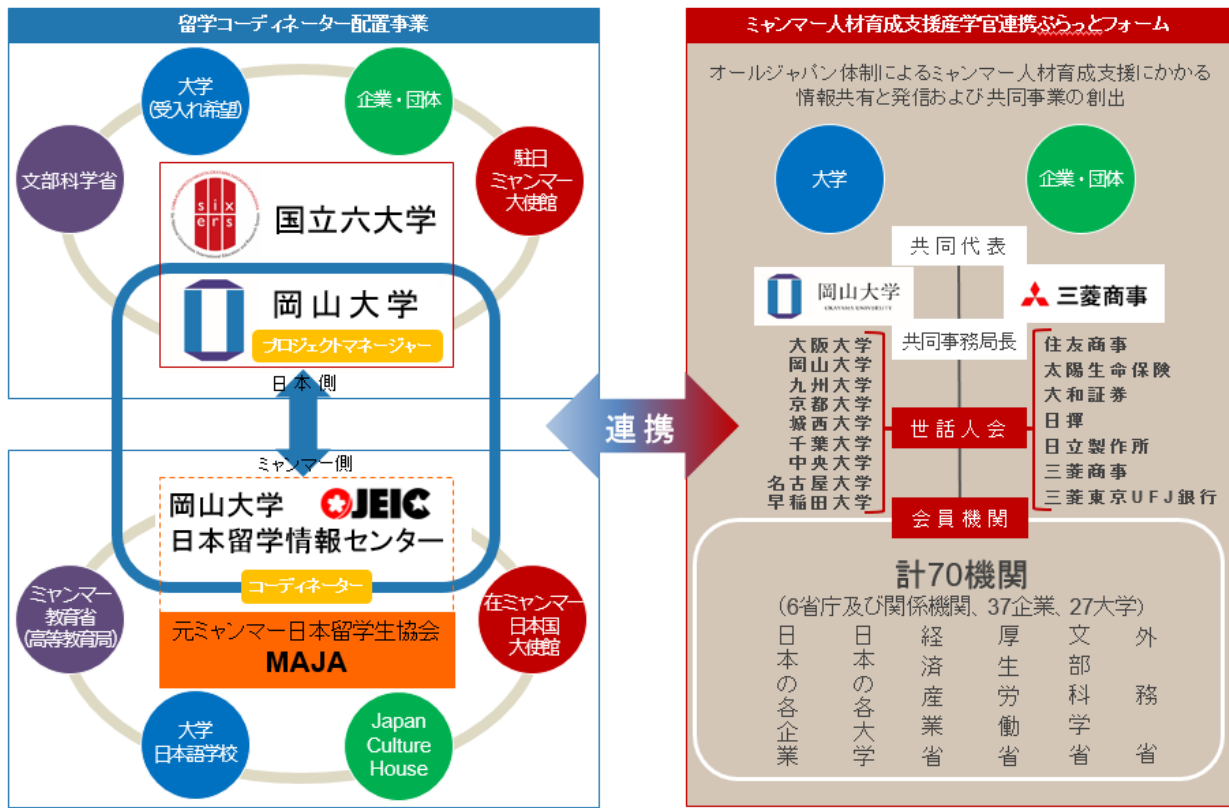


OJEICの外観

OJEIC は岡山大学グローバル・パートナーズとともにミャンマー人留学生の日本の大学への留学を支援するため、毎週、スカイプで打合せを行い、様々な取り組みについて協議している。また、ミャンマー人留学生の卒業後の支援を実施するため、ミャンマー人材育成支援産学官連携ぷらっとフォーム¹（以下、「ぷらっとフォーム」）とも協力し、ミャンマー進出日本企業との連携も強化している。

¹ <http://mjpf.jp/>

体制



OJEICは全大学のための事務所です。ご活用ください。

ここで、ミャンマーに配置している留学コーディネーターの主な活動を紹介する。留学コーディネーターの活動は、①裾野を広げる活動、②日本留学に関心を持つ人を増やす活動、③具体的候補者を獲得する活動、④候補者から志願者に移行させる活動、⑤留学までの支援、⑥広報活動の6つである。

- ① 裾野を広げる活動では、日本語スピーチコンテスト、日本留学試験(EJU)、日本語能力試験(JLPT)、Top-J 試験、セーダン試験（ミャンマーの高校を卒業するための全国統一試験）、井内奨学金試験等の会場でOJEICのミャンマー語版パンフレットを配布し、OJEICの活動を多くのミャンマー人学生に知ってもらうための広報活動を行っている。また、毎年ヤンゴンで開催されるジャパン・ミャンマー・フェド（以下、「日本祭り」）にブースを設けて参加し、OJEICのパンフレットを配布するとともにOJEICブース来場者を対象に日本留学に関するアンケートを実施した。（アンケート集計結果の詳細は4.を参照。）なお、ミャンマーの大学等の代表を数多く訪問し、OJEICの活動の普及に努めている。



「日本祭り」でのアンケートの様子



マンダレー大学学長訪問

- ② 日本留学に関心を持つ人を増やす活動では、日本留学フェア、大学等でのミニ留学フェア、Academic セミナー等を実施している。また、ヤンゴン・プレス誌という月刊誌のフリーペーパー（ミャンマー語版）に日本留学に関する記事を連載している。

(1) 日本留学フェアは年に1回、ヤンゴンで実施している。2014年からすでに3回行われており（2015年度より岡山大学主催）、来場者数は2013年（日本留学セミナー²として実施）の200人弱から2016年には約1,300人と4年間で6倍以上に膨れ上がった。この来場者数の急激な増加からもミャンマー人学生の日本留学への興味が高まっていることが伺われる。2017年は8月26日（土）にはヤンゴンで日本留学フェアを開催する。30以上の日本の大学や教育機関が出展し、多くのミャンマー人学生に日本に留学するための情報提供を行う予定である。出展について興味のある大学及び教育機関は岡山大学グローバル・パートナーズ留学コーディネーター配置事業事務局まで連絡ありたい。

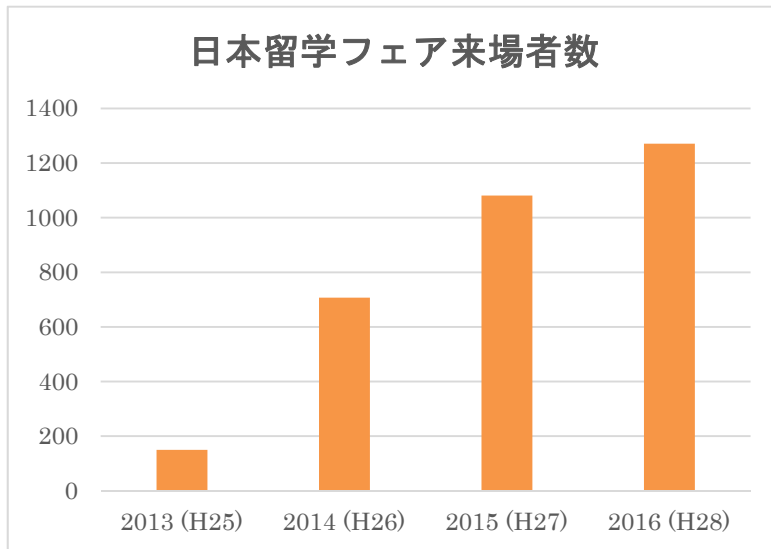


日本留学フェアの様子（ブース）



日本留学フェアの様子（会場）

² http://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/event/2013/myanmar.html



(2) 大学等でのミニ留学フェアは、2016年度に23回実施した。実際には、OJEIC職員がミャンマーの14大学、2つのインターナショナルスクール、7つの日本語学校を往訪し、日本留学に関する約1時間のプレゼンテーション及び質疑応答を行った。プレゼンテーションの言語は英語またはミャンマー語（稀に日本語）である。スクリーンをミャンマー語で表示することによって、英語を十分に理解しない学生にも留学の魅力や手順などが伝わるように配慮している。また、ヤンゴンのみではなく、地方の大学でもミニ留学フェアを7回開催している。日本の大学及び教育機関とも連携して、合同でミニ留学フェアを開催することを積極的に考えているので、興味のある大学及び教育機関は連絡ありたい。



カレイ大学でのミニ留学フェア



日本語学校でのミニ留学フェア

(3) 「すぐにでも留学したい」、「日本の大学院に留学したい」という多くの回答があった日本留学フェアでのアンケート結果に基づき、2017年2月、「六大学」の教員6人が大学院の模擬授業を実施する Academic セミナーをマンダレーとヤンゴンにて開催した。マンダレーとヤンゴンの参加者は合計約250人である。各教員は農学、医学、情報、化学、薬学などの専門分野の模擬授業を行うと

ともに、それぞれの大学紹介も行った。大学院レベルの授業であったが、参加学生はいずれも熱心に耳を傾け、中には質問をする者もいた。また、各大学の個人相談ブースでは、多くの学生が教員に専門分野及び大学についての質問をしていた。OJEIC も日本留学に関するプレゼンテーションを行い、多くの教職員・学生に日本留学の魅力を伝えた。

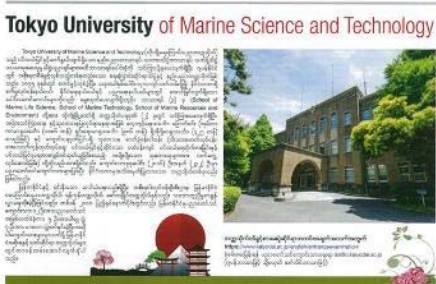


マンダレー会場での模擬授業



ヤンゴン会場でのブース

(4) ヤンゴン・プレス誌（ミャンマー語版）はミャンマーで発行部数約 5,000 部を誇る毎月発行の A3 の大きさのフリーペーパーである。OJEIC は同誌に毎月、ミャンマー語で日本留学に関する記事を提供している。OJEIC の記事のほかにも毎号日本の大学 2 校分を宣伝・紹介できるスペースを無料で確保しているため、日本の大学の皆様にもミャンマー語の大学紹介・宣伝記事を問い合わせ願いたい。



- ③ 具体的候補者を獲得する活動について、OJEICでは月曜日から金曜日の午前8時半から午後5時まで、ミャンマー語または英語（稀に日本語）による個別留学相談を行っている。2017年度は、延べ約350人（電話約60人、メール約170人、来訪約120人）の相談に応じた。日本の大学に留学をしたいだけという大まかな目的で来訪する学生及び保護者が多いため、親身に個別留学相談に応じた。特に留学希望地域、研究分野等の絞り込みをともに行い、日本の大学に入学できるように支援を行っている。
- ④ 候補者から志願者に移行させる活動では、個別留学相談で大学や研究分野等の絞り込みがある程度できた留学希望者の情報を日本の大学に紹介し、留学希望者本人と受験・入学手続きを行うことを依頼している。基本的には、OJEICのファーストコンタクト・シート及び履歴書に留学希望者本人に詳細を記載してもらい、その情報を日本の大学の担当者に送付し、留学希望者本人への連絡を依頼する。それと同時に、手続きをスムーズに行ってもらうためにメッセージ送付時にはOJEICにもCCしてもらうことを依頼し、両方で不都合があった際には即座にフォローできる状態にしている。
- ⑤ 留学までの支援においては、OJEICでは、留学が決まった学生からの日本での生活についての問い合わせについても、日本人であるコーディネーターと日本留学経験者であるアシスタントの2名体制で丁寧に問い合わせに対応している。
- ⑥ 広報活動の中心は、ミャンマーのほとんどの学生がよく利用しているFacebookの運営である。OJEICは毎日、日本への留学情報を主にミャンマー語で掲載し、多くのミャンマー人学生に日本留学に関する情報を提供している。特にミャンマーではFacebookでの情報提供は非常に有益である。OJEICのFacebookに情報掲載を希望する大学・教育機関はOJEICまで連絡ありたい。

最後に、簡単ではあるが「ぷらっとフォーム」との連携について紹介したい。日本への留学のための来日を入り口と考えるなら、日本の大学・大学院卒業が出口である。ミャンマー人に対する入り口部分はOJEICが情報提供・支援を行っているが、入り口部分だけでは日本の大学・大学院に留学するメリットを十分にアピールすることができない。また、日本企業の進出が年々増加しているミャンマーの学生にとって就職までを視野に入れた留学後の道筋を考えることは、留学の大きな動機になりうる。そのため、「ぷらっとフォーム」はミャンマーにおける人材育成支援を産学官のオールジャパン体制で推進し、出口部分の支援を提供している。その一環として2017年3月にはミャンマー就職フェア2017という名称の日本在住のミャンマー人留学生と既卒者を対象とした就職フェアを中央大学を会場

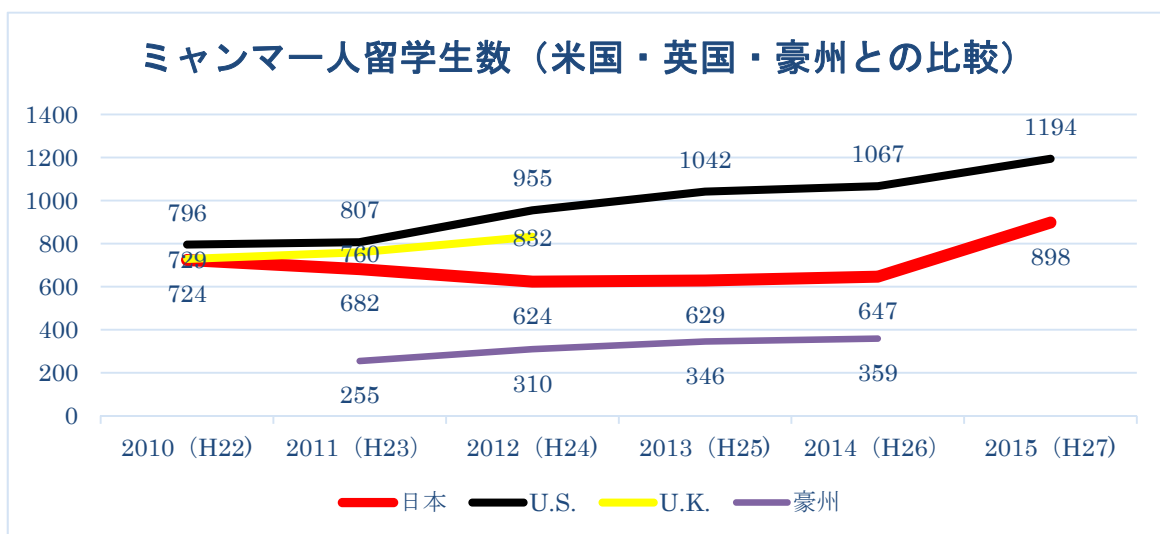
として開催した。出展日本企業数は13社でミャンマー人留学生の参加者は30人であったが、日本企業とミャンマー人留学生との間で熱心に情報・意見交換が行われた。「ぷらっとフォーム」は今後ともミャンマー就職フェアを開催していく予定であり、多くのミャンマー人留学生に対して出口部分を支援していくものと確信している。



ミャンマー就職フェア2017の様子

4. ミャンマーにおける海外留学の傾向と日本留学の状況

日本の高等教育機関へのミャンマー人留学生数は年々増加している。下の表によると、2014年までの日本の大学でのミャンマー人留学生数は600人から700人とほぼ横ばいであった。しかし、OJEICが事務所をヤンゴンに開設し、ミャンマーで民主的な総選挙が行われた2015年以降の日本の大学でのミャンマー人留学生数はうなぎのぼりになっている（2015年898人（前年比約39.8%増）、2016年1,129人（前年比約25.7%増））。もちろん、アメリカとイギリスへのミャンマー人留学生数は日本への留学生数と比較すると多いが、非英語圏の留学先として日本の大学は多くのミャンマー人留学生を魅了していると思出すことができる。



（出典）日本：日本学生支援機構「留学生調査」、米国：The Open Doors Report™ Institute of International Education, Inc.、英国：OECD.stat、豪州：Australian Government, Department of Immigration and Border Protection

では、なぜ、ミャンマー人の日本の大学への留学が急増しているのだろうか。もちろん、OJEICの開設が一つの要因であることは確かである。そして、ミャンマーの民主化も大きな要因である。また、ティラワ工業団地の建設に見られるような、日本企業のミャンマーへの進出による雇用機会の拡大に伴った日本語学習熱の高まりが考えられる。日本の大学の安価な授業料、高い教育レベル、日本の治安の良さ、日本ポップカルチャーの人気等も作用している、と言われている。そして、これらに加えて昨年から新たに、日本の大学の受入れに大きな変化があった。

ミャンマーの高校までの教育制度は5・4・2年生の11年間である。そして、学部の教育期間は4年間である。従来は、ミャンマー人が日本の大学や大学院に入学するには1年間の準備教育課程を経なければならなかった（または研究生になる）。OJEICがミャンマーの大学の学長等を往訪した際も、ミャンマー人の海外留学の懸念事項としてこの教育年数の違いが多く指摘された。

しかし、2016年12月、日本の文部科学省は、「高等学校に対応する外国の学校の課程のうち当該課程を修了した者が大学入学に関し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められるものを指定する件」と題した告示を行い、外国において学校教育の12年の課程を修了した者に準ずるとして、ミャンマーの「アテッタン・アシン・ピンニャーイェーの課程（普通高校課程）」を修了した者に対して、日本の大学入学資格を与えた。それまでは、ミャンマーのアテッタン・アシン・ピンニャーイェーの課程が11年間で修了するため、ミャンマー人が日本の大学に入学するにはもう1年間の教育年数が必要であった。しかし、この告示の公布により、アテッタン・アシン・ピンニャーイェーの課程を修了した学生は、日本の学校教育12年の課程を修了したのと同等と認定されるようになった。つまり、同課程を修了すると、日本の学校教育修了年数に1年足りなくても、日本の大学を受験することができるようになったのである。また同様に、修士課程（博士前期課程）への入学についても、2016年12月以前は16年間の教育年数が必要であったが、告示の公布後は最低条件が15年間の教育年数（学士号も取得）でも16年と同等と認められることになった。つまり、日本の修士課程に入学するために、ミャンマーの学部卒業後に1年間、準備教育課程に入学したり、研究生として時間を費やす必要がなくなったのである。ミャンマーの学部卒業とともに、入学試験に合格したら、日本の大学の修士課程に入学できる可能性がでてきた。（なお、この告示は、1973年10月1日にさかのぼって適用するので、すでにミャンマーの高校を卒業して、日本の大学への進学を目指している人も対象となる。）ここで、一つ注意することがある。学部や修士課程への入学資格が上記の通り1年間短縮されても、日本の大学の中には、受験の条件に年齢制限を設けているところがある。そのため、日本政府によってミャンマー人留学生受入れのための新しい基準が実施されても、日本の大学には独自の基準を設けているところもあるというのが現状である。

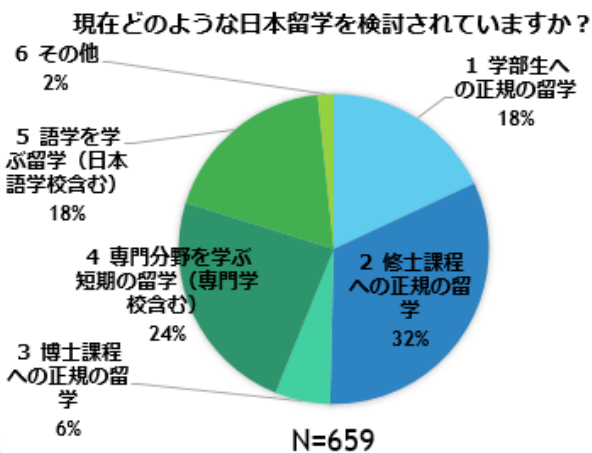
ミャンマー人学生の日本への留学に関するアンケートについて分析する。アンケートは2016年10月の日本留学フェアと2017年2月の「日本祭り」で実施された。日本留学フェアのアンケート回答者

は学生を中心に667人(来場者数約1,300人)、「日本祭り」はOJEICブース来場者(高校生、大学生、父兄等の一般人)161人(「日本祭り」来場者数推定2万人、OJEICブース来場者数500人以上)であった。

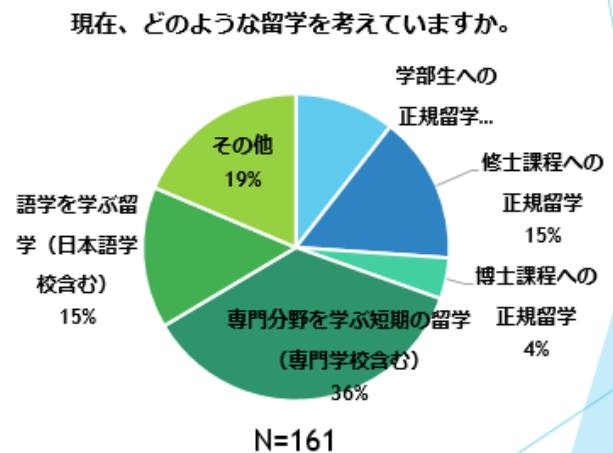
日本への留学先について、日本留学フェアでは学部(18%)と修士課程(32%)が多かったが、「日本祭り」では専門学校(36%)と日本語学校(15%)が多い傾向にあった。また、留学希望分野では、日本留学フェアと「日本祭り」でのアンケート回答者ともに、経済学、外国語、コンピューター、工学、国際関係学が多かった。

日本留学フェアとジャパン・ミャンマー・プエドーにおける留学に関するアンケートの集計結果(留学の種類)

日本留学フェア



ジャパン・ミャンマー・プエドー

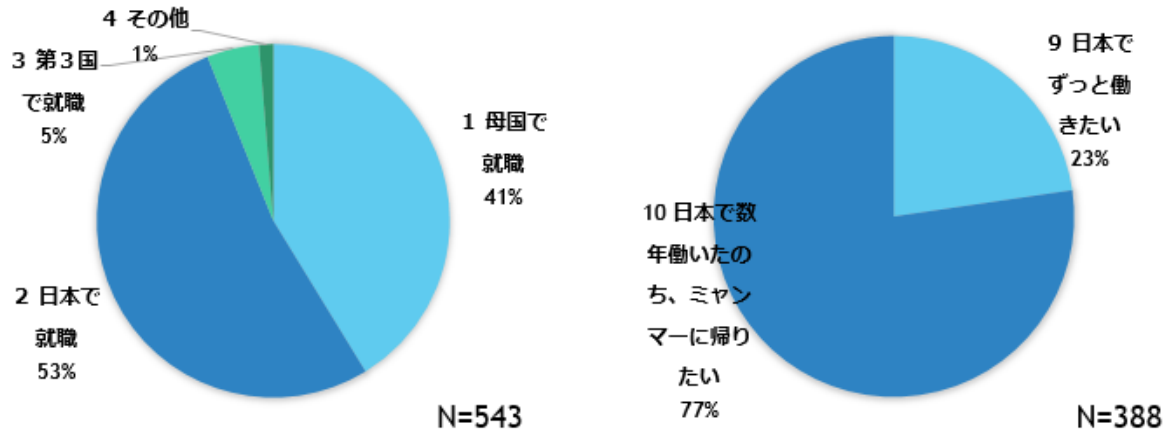


日本留学フェア：学部(18%)と修士課程(32%)への留学希望者が多い
 プエドー：専門学校(36%)と日本語学校(15%)への留学希望者が多い

そして、日本への留学後の進路希望について示したものが下の図である。この図は日本留学フェアでのアンケート集計結果であるが、「日本祭り」でも同様の結果が得られた。左の図は、「日本で就職」の方が「母国(ミャンマー)で就職」希望よりも多いことを示している。また、右の図では、「日本でずっと働きたい」が回答者の23%を占めているのに対し、「日本で数年働いたのち、ミャンマーに帰りたい」と回答した人が77%を占め、日本で就職を希望する人も、数年後にはミャンマーでの就職を望むことが明らかになった。そのため、3. で説明した「ぷらっとフォーム」が主催したミャンマー就職フェアはミャンマー人留学生を日本の大学に呼び込むための大きな事業となると考える。

留学フェアにおける留学に関するアンケートの集計結果（留学後の進路）

あなたが、留学終了後の進路として希望するものはなんですか。



日本で数年働き、経験を積んでから帰国したい学生が多い



5. おわりに：課題と今後の展望

以上の取り組みをとおして、2018年度には日本の大学や大学院へのミャンマー人留学生の受入れ総数を1,300人とすることを目指している。現在のペース（2016年度は1,129人）で行くと、同目標数を達成するにはさらなる努力が必要である。最後に、同目標数を達成するためのミャンマーでの留学コーディネーター配置事業の課題と今後の展望について述べる。

競合する他国のミャンマー進出の勢いは留まっていない。まず留学希望先となるのは、アメリカ、イギリス、オーストラリア、シンガポール等の英語圏である。日本留学を考える学生数は、まだまだ相対的に少ないのが現状である。今後、この厳しい環境の中、日本留学という選択肢をより多くの学生に決定させるためには、更なる戦略が必要となる。

2016年度までは大学前教育11年制や専門学校志向が強い等の特殊性・困難性があったにもかかわらず、ミャンマー人留学生数の日本留学の全体数は順調に推移している。引き続き、ミャンマーにおける主要大学・高校などへの訪問、Facebookなどの媒体を通じたOJEICの広報、各大学における留学説明会の開催、個別留学相談等を積極的に行っていくとともに、受入れ先となる日本の教育機関とOJEICの更なる情報共有・協力関係を築くことが重要である。

—お知らせ—

2017年8月26日（土）にヤンゴンで日本留学フェアを開催します。30以上の日本の大学や教育機

関が出展し、多くのミャンマー人学生に日本に留学するための情報提供を行う予定です。出展について興味のある大学及び教育機関は岡山大学グローバル・パートナーズ留学コーディネーター配置事業事務局（TEL：086-251-8937、E-mail：studyinjapan@adm.okayama-u.ac.jp）までぜひご連絡ください。

岡山大学日本留学情報センター（ミャンマー）

住所：R322A, Bldg-C, Pearl Condo, Kaba Aye Pagoda Rd, Bahan Township, Yangon, Myanmar

電話：+95-92-6184-1054

メール：ojeicmyanmar@gmail.com

Facebook：https://www.facebook.com/StudyinJapanOfficeYangon/